

平成二十年

# 「路」年間賞

## 選考委員

内平登代子 江澤多香子 加藤 佳子 小泉 正巳  
佐々木彩乃 佐藤 頼昭 高橋里江子 瀧 正治  
中野沙千古 二宮 茂男 藤原 和美 金子美知子

## 最高賞（賞状・入賞句彫刻楯）

ため息も買ひ物力ゴに入れている

芹沢美知子

◎佳子 ○多香子 ○美知子 ○正巳 ○頼昭 ○正治  
○和美

## 優秀賞（賞状・入賞句彫刻楯）

冬の絵をゆつくり溶かす里の水

荻原 鹿声

◎多香子 ◎彩乃 ○美知子 ○和美

## 次点

野の花の直訴石垣割って出る

堀井 克子

◎里江子 ○彩乃 ○頼昭 ○正治 ○茂男

## 以下高点順

ヒロシマにまだ生えて来ぬ永久歯

瀧 正治

◎沙千古 ◎和美

どんぶりの縁を泳いでいる平和

伊藤 我流

◎茂男 ○頼昭 ○和美

ホーム入り前夜に母を抱いて寝る

石井 沙江

◎美知子 ○沙千古

枯枝になっても天を撃つかたち

小泉 正巳

◎正治 ○美知子

燃えつきた男が出した不燃ゴミ

栗原 俊一

◎登代子 ○茂男

酒飲めば今が青春だと思ひ

伊藤 我流

◎佳子 ○里江子

渴きそうだから続ける無駄話

◎正巳 ○里江子

荻原 鹿声

ブランコが止まり再起へ立ち上がる

◎彩乃 ○頼昭

吉澤 和子

鈴成りの絵馬に格差の雪が降る

◎頼昭 ○里江子

中野沙千古

ゴミ出しへわが哲学の道歩く

◎頼昭 ○和美

小泉 正巳

静止画の中では飛んだ竹とんぼ

◎茂男 ○彩乃

緒方 一雄

歳月を越え地獄絵のビブラート

◎美知子

高橋里江子

笑ったら起き上がれなくなる達磨

◎登代子

日野 輝紀

譲れない一線があり頑張れる

◎多香子

竹中 正幸

キャンドルが揺れてよそ見がしたくなる

◎正巳

後藤 洋子

ふるさとに立つと明日が軽くなる

◎里江子

荻原 鹿声

目をつむり内なる鬼とにらめっこ

◎正治

二宮 茂男

鶴千羽ほこりまみれのレクイエム

◎沙千古

高橋里江子

青い鳥一声鳴いて石になる

◎和美

大橋 政良

人間を続けるための嘘をつく

○美知子 ○茂男

田中 秀貴

老老介護妻らつきょうの皮を剥く

○登代子 ○多香子

岡田 話史

戦後史を支えた汗が乾き切り

○登代子 ○沙千古

木村 紀夫

仮縫いのままで綻ぶキミとボク

○佳子 ○里江子

鈴木 安弘

役所から届く碌でもない通知

○佳子 ○里江子

堀井 勉

ピラミッドただ営々と蟻の列

○美知子

渡部トミ子

花びらの裏は議論の外にいる

○登代子

小泉 正巳

ヒロシマで探しものして終る夏

○登代子

飯田サイコ

銃口の形が好きな万華鏡

○登代子

藤原 和美

湖の底で真珠となる涙

○多香子

中野沙千古

風少しあるから生きるのが楽し

○多香子

岡田 話史

未知数を拾い出して十二月

○多香子

大橋 政良

取り敢えず失敗談を振ってみる

○佳子

後藤 洋子

タラレバで足の踏み場もない酒場

○佳子

荻原 鹿声

後回ししてる仕事を積みあげる

○佳子

江澤多香子

地下鉄の首さむざむと解放区

○正巳

藤原 和美

押し黙ることに徹した鏡餅

○正巳

伊藤 我流

母の日は何時も静かに日が暮れる  
○正巳

緒方 一雄

網棚に持って帰れぬ顔を置く  
○正巳

森 利江

色の無い子供に送るしゃぼん玉  
○彩乃

加藤 胖

青い鳥やはり卵の値は上がる  
○彩乃

小泉 正巳

雲一つ古里便と書いてある  
○彩乃

小安 湖雪

老介護身内の川を蛇行する  
○頼昭

坂本 嘉三

一点の曇りもなくて霧の中  
○正治

藤原 和美

包丁に切れ過ぎるなど言い聞かす  
○正治

大橋 政良

遮断機の向こうに夢のひとかけら  
○正治

鈴木異呂目

ねぎらいの罨 谷底越えて来る  
○沙千古

内平登代子

振り出しに戻るさいころばかり振る  
○沙千古

金丸 年子

風ばかり読んでためこむ猜疑心  
○茂男

神宮寺茂太

ほだされて帰りそこねる渡り鳥  
○茂男

妹尾 安子

成り行きに任せきれずに割る卵  
○和美

佐々木彩乃

磔刑にする自画像を探し出す  
○和美

日野 輝紀

選考の経緯・方法は次の通りです。

一、選考対象句は、「路」誌「528号（平成二〇年二月号）〜538号（平成二十一年一月号）」の推薦句

二、選考委員は、七句（特選二句、各三点、佳作五句各一点、但し、主宰はそれぞれに一点を加算する。）を推薦する。

合計点の高い順に、最高賞、優秀賞各一句を主宰が決める。上位が同点の場合は、主宰が一句に決定する。前記の資料を「編集幹事会議」へ提出して確認を得た。

〈整理 堀井 勉〉

## 受賞の言葉



芹沢美知子

私にとって年間賞とは夢のまた夢、無縁のものと思っていましたので驚きと喜びでいっぱいです。本当にありがとうございます。選考委員の方々に深く感謝いたします。

この句は米国発の不況の中、日々買い物に行き感じたものです。日本経済に一日も早く春が来るよう願っています。「継続は力なり」を胸にこれからも頑張つて行きたいと思っております。



荻原 鹿声

Uターンして二度目の冬となりました。栃木県日光市に來ても「路」へ投句するのは「半具象・半抽象」に賛同し、言葉の多面性に挑戦できる場と考えているからです。これらのことが少しでも感じて頂けたら望外の喜びです。これからも「今の自分」を書いていくつもりです。選考委員の皆様、ありがとうございました。